

東成区将来ビジョン(案)

2026-2029

～何かにつけてちょうどええまち『ひがしなり』～
の実現をめざして

目次

はじめに	・・・P1
東成区の紹介	・・・P2～3
めざす姿と4つの柱	・・・P4
施策展開の方向性	・・・P5～8
①みんなが協働しイキイキしているまち	
②地域の活気と安心が共に息づくまち	
③みんなで子どもの育ちや学びを支えるまち	
④いつまでも自分らしく暮らし続けられるまち	
参考データ	・・・P9～13

はじめに

- ・ 将来ビジョンは、区政を運営していく上で、区のめざす将来像、将来像の実現に向けたまちづくりの方向性をとりまとめ、区民の皆さんに明らかにするものです。
- ・ 東成区は、2025年4月1日に100周年という節目を迎える、同時に私も民間から公募区長として就任しました。この節目の年を新たなスタートと捉え、このたび、東成区のこれからの100年を見据えて今後4年間のめざす姿と取組みの方向性をあらわす「東成区将来ビジョン2026-2029」を策定しました。
- ・ 東成区は、古くから人々の暮らしと交流によって育まれてきた歴史あるまちです。区内には、昔ながらのまち並みや親しみやすい地域性が今も受け継がれており、あたたかなコミュニティが息づいています。私は、こうした地域活動を通じて育まれた人ととの「つながり」が、東成区のかけがえのない財産だと思います。次の100年を担う若い世代をはじめとした多様な人々との対話を重ね、未来の東成区をより良く、より豊かなまちにするために、今この時を生きる私たちには、この「つながり」を守り、発展させていく責任があると考えています。
- ・ この将来ビジョンの基本的な考え方は、「東成区のええところは未来につなげていこう」「東成区がもっとええまちになるよう、今できることをやっていこう」というものです。掲げためざす姿は「何かにつけてちょうどええまち『ひがしなり』」です。めざす姿の実現に向け、区民の皆さんと一緒に、区役所職員一丸となって取り組んでまいります。



東成区マスコットキャラクター
うりちゃん



大阪市東成区長 春木 卓伸

東成区の紹介



- ・ 東成区は大阪市の東部に位置し、北は城東区、東は東大阪市、南は生野区、西は中央区・天王寺区と接しています。
- ・ 区域面積は4.54平方キロメートルで、市内で2番目に小さいコンパクトな区です。
- ・ 人口は89,040人（24区中18位）、世帯数は51,671世帯（同16位）で、昭和35年をピークに年々減少していましたが、平成11年から増加傾向にあります。近年は外国人住民や若年層の単独世帯の増加が顕著となっています。
- ・ 主要道路の集まる今里交差点（通称：今里口一タリー）は、区のほぼ中心に位置し、区役所をはじめ、官公署、金融機関等が数多く集まり、区の発展の拠点となりました。
- ・ 交通機関はOsakaMetroの路線が東西に2本、南北に1本、さらに西端にJR環状線、南端に近鉄線も通っており、交通網が充実しています。
- ・ 戦前からの建物が多く残っていることから、木造家屋が密集し、細街路が錯そうする地区が多くあります。
- ・ 日本有数のモノづくり企業が集積する東大阪市と隣接し、区内東部を中心に「モノづくり」企業（製造業）が多く、また、歴史や文化を感じる地域資源も多くあります。
- ・ 各地域では、地元商店街やコミュニティが活発に活動し、つながりづくりを育む地域行事やイベントなどが数多く開催されるなど、地域のつながりの強さが残っています。

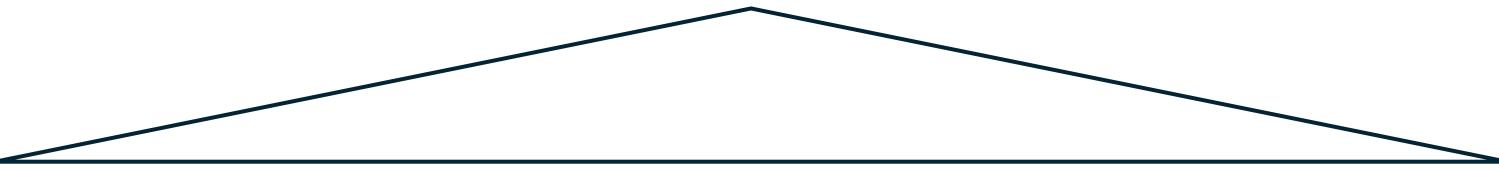
東成区の紹介

	東成区のデータ	24区中の順位	出展
面積	4.54 km ²	23 位	令和7年12月1日推計人口
人口	89,040 人	18 位	令和7年12月1日推計人口
世帯数	51,671 世帯	16 位	令和7年12月1日推計人口
人口密度	19,612 人/km ²	3 位	令和7年12月1日推計人口
高齢化率	23.7 %	16 位	令和7年12月1日推計人口
外国人人口	9,312 人	9 位	令和7年9月末外国人人口
事業所数 (うち製造業)	4,643 事業所 (921 事業所)	17 位 (6 位)	令和3年経済センサス
従業員人口 (うち製造業)	40,950 人 (8,458 人)	20 位 (9 位)	令和3年経済センサス

めざす姿と4つの柱

【めざす姿】

何かにつけてちょうどええまち『ひがしなり』



①

みんなが協働し
イキイキしてい
るまち

→ P5へ

②

地域の活気と安
心が共に息づく
まち

→ P6へ

③

みんなで子どもの
育ちや学びを支えるまち

→ P7へ

④

いつまでも自分
らしく暮らし続
けられるまち

→ P8へ

【めざす姿を実現するための4つの柱】

施策展開の方向性

① みんなが協働しイキイキしているまち

めざす状態

区民、地域や企業等が協働し、みんながイキイキと役割を果たしながら生活を楽しむことができる状態

- ・ 区の良き財産である「つながり」を守りながら深化させるとともに、多様な主体（国籍、世代、企業・団体）の参画により「つながり」をさらに活性化・発展させ、「つながり」を東成の未来につなぐための施策を推進します。
- ・ 豊かな地域コミュニティを持続させるため、新たな担い手を継続的に確保できるよう地域をはじめ教育機関や関係団体等の様々な"パートナー"と協働し、区民が地域の強い結びつきや参加する喜びを感じられるよう取組を支援します。



参考データ P10
「外国人住民国籍別人員数」
「町会加入率」

区役所担当課
市民協働課（市民協働）
総務課（総合企画）

施策展開の方向性

② 地域の活気と安心が共に息づくまち

めざす状態

まちに地域の誇りと活気があふれ、災害や犯罪への備えが十分で、安心して暮らせる状態

- ・ 伝統や歴史ある文化のみならず、（「住工共存」により）まちの活力と安心を築いてきたモノづくり企業が持続的に継続・発展できる場の提供など、東成区のアイデンティティを地域の誇りとして次代に継承します。
- ・ 大規模災害に備え、区民、地域、災害時協力企業等をはじめとする事業所が自助・共助の視点に立ち、避難に支援が必要な方の避難支援や災害時に適切な行動をとることができるよう地域防災力のさらなる向上を図ります。
- ・ 地域や警察などの関係機関と連携し、複雑化・巧妙化する犯罪に対する区民の防犯意識のさらなる向上を図ります。

11 住み続けられる
まちづくりを



17 パートナーシップで
目標を達成しよう



参考データ P11

「夜間人口・昼間人口及び昼夜間人口比率」
「人口10万人当たりの街頭犯罪発生件数」

区役所担当課
市民協働課（市民協働）

施策展開の方向性

③ みんなで子どもの育ちや学びを支えるまち

めざす状態

地域全体で子育てや子どもの学びを支える仕組みが整っている状態

- 安心して子育てができる、ひがしなりっ子がすくすく育つよう行政、支援機関、地域、企業等が連携協働して地域社会全体がつながり、子育て家庭を応援する地域づくりを推進するとともに、取組への理解促進や認知度向上を図ります。
- 子どもたちが夢と希望をもって成長し、一人ひとりが個性や可能性を伸ばしながら「未来を切り拓く力」「将来にわたり学び続ける力」を育むことができるよう、学校園等の関係機関とともに、より良い教育環境の整備を進めます。



参考データ P12
「世代別人口の推移」
「世帯数」

区役所担当課
保健福祉課（児童・保健）
市民協働課（教育支援）

施策展開の方向性

④ いつまでも自分らしく暮らし続けられるまち

めざす状態

だれもが健やかに、自分らしく安心して暮らし続けられる状態

- ・「気にかける・つながる・支え合う」地域づくりに向け、在宅医療・介護連携などさまざまな取組を活用し、高齢者や支援を必要とする方、その他の配慮の必要な方を地域社会全体で支援する仕組みづくりを進めます。
- ・幅広い世代の区民が住み慣れた地域で自分らしく安心して生活することができ、また、主体的・継続的に健康づくりや介護予防など健康寿命の延伸に取り組むことができる環境づくりを推進します。

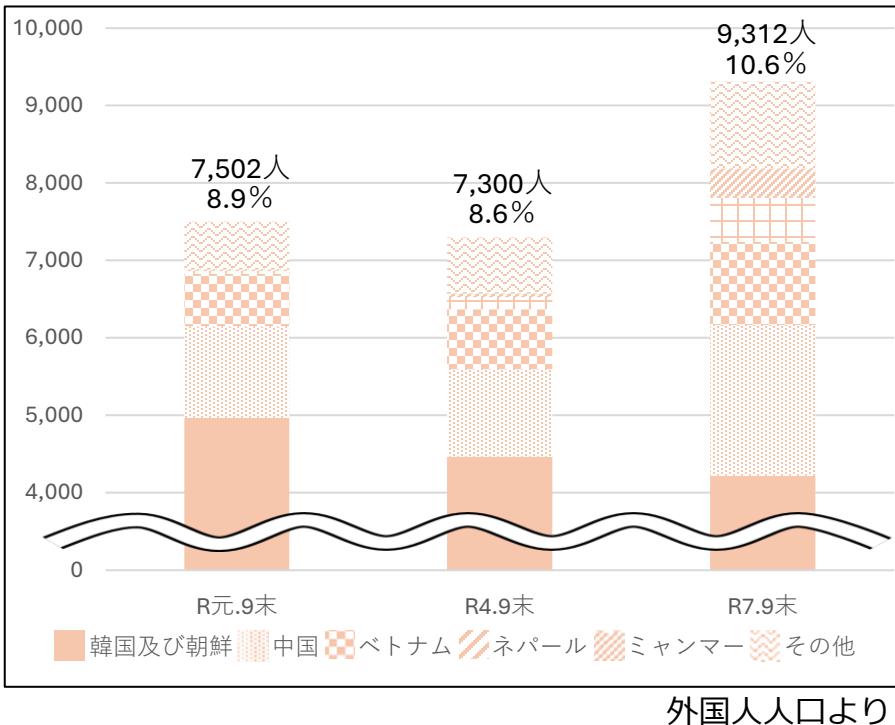


参考データ P13
「年齢区分の構成」
「東成区における年齢区分の構成の推移」

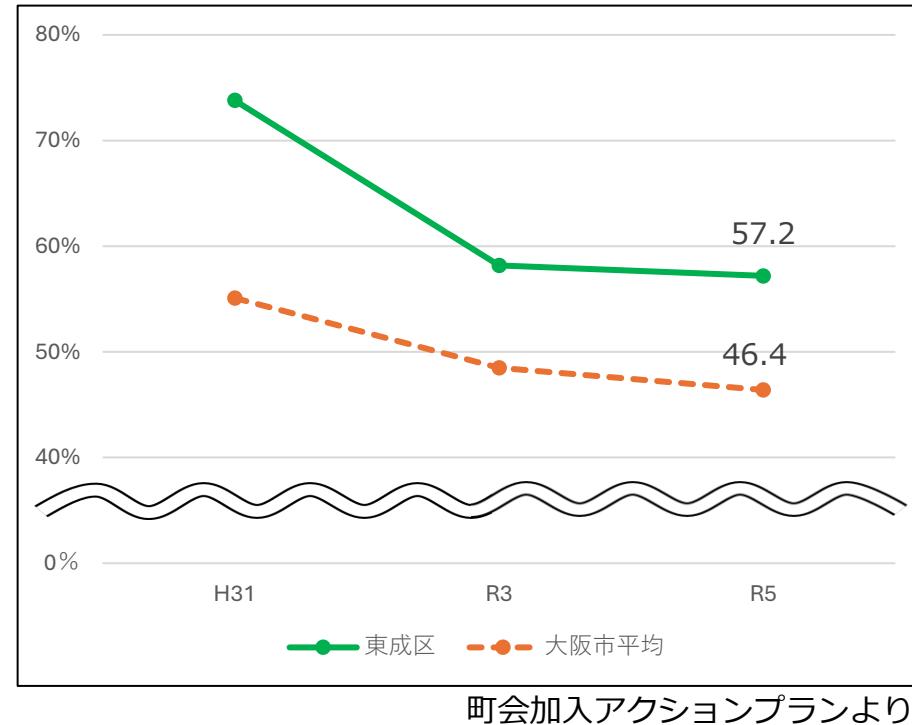
区役所担当課
保健福祉課（福祉）
保健福祉課（児童・保健）

参考データ

○外国人住民国籍別人員数



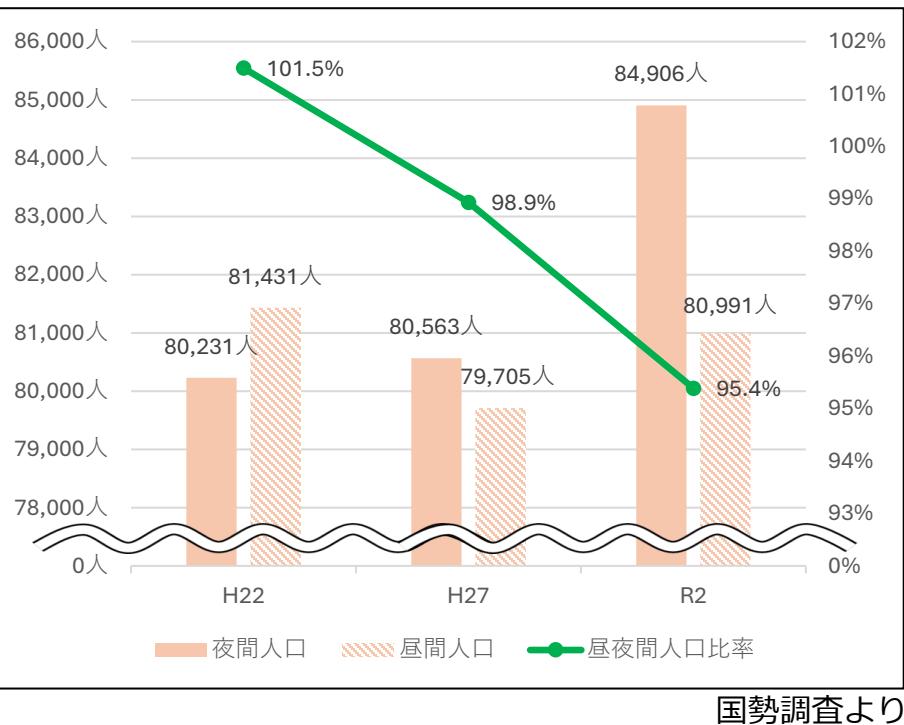
○町会加入率



- 令和7年9月末時点で外国人住民の人口は9,312人と区の人口の約1割を占めている。
- コロナ禍で一旦減少に転じたが、元々多く住んでいた中国籍、ベトナム籍の住民がさらに増えたほか、近年はネパール、ミャンマーなど東南アジア、南アジアの国籍を持つ住民が多くなっている。

- 令和5年の町会加入率は57.2%で、大阪市平均の46.4%を10ポイント以上上回っており、減少傾向にあるものの比較的高水準を維持している。
- 区内の全世帯の64.1%は共同住宅（集合住宅）に居住しており、人口が増加傾向にある中、今後も共同住宅（集合住宅）の増加が見込まれる。
- 特に、大阪公立大学森之宮キャンパスの令和7年秋の開設に合わせて、区北部にはワンルームマンション等が増加しているほか、交通環境に恵まれている駅周辺は賃貸住宅が多く、町会加入に結びついていない。

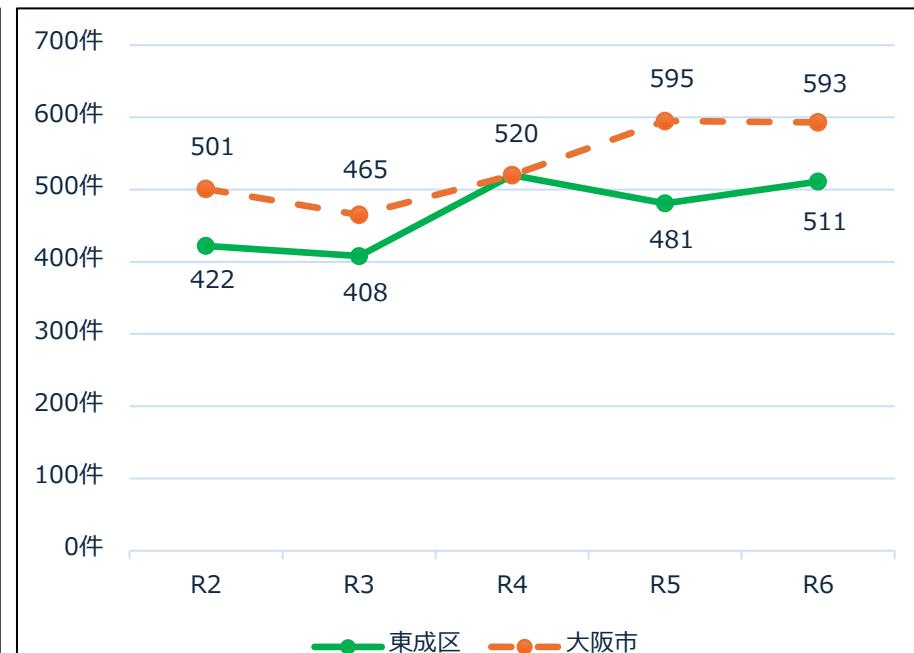
○夜間人口・昼間人口及び昼夜間人口比率



国勢調査より

- 昼夜間人口比率は95.4%と100%に近く、大阪市中心部と隣接しながらも、昼も夜も人口があまり変わらない地域である。
- 平成22年は101.5%、平成27年は98.9%であり、昼夜間人口比率の漸減傾向が続いている。

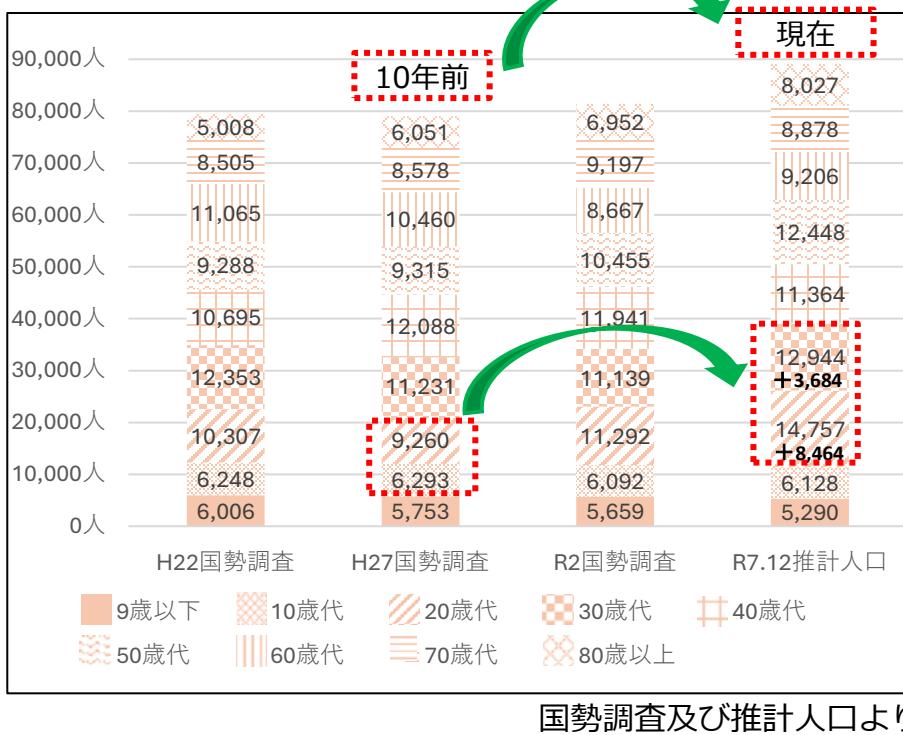
○人口10万人当たりの街頭犯罪発生件数



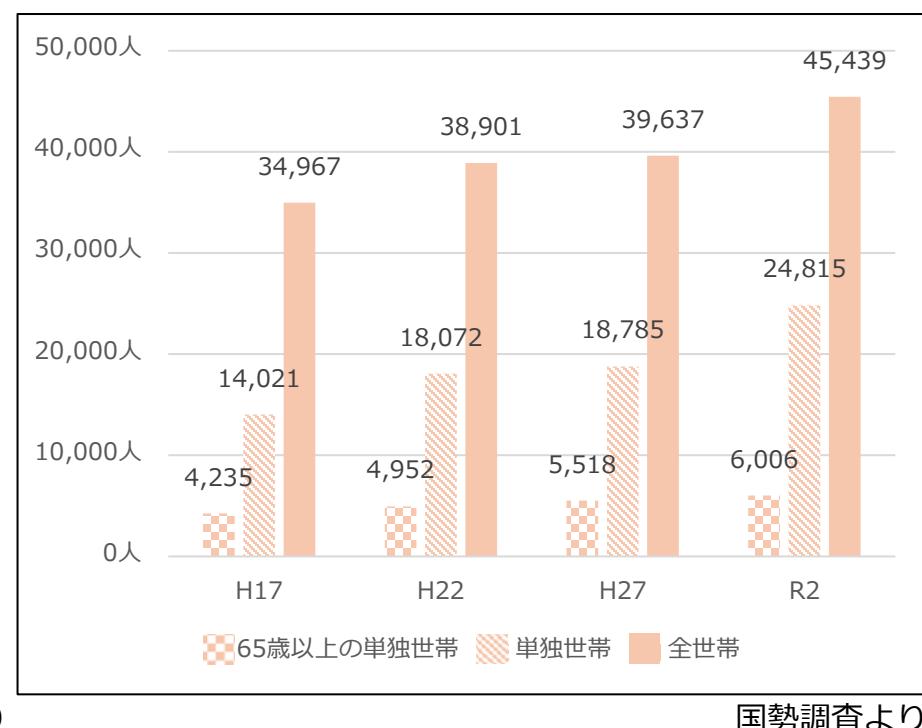
市民局資料より算出

- 大阪市平均・東成区ともに、街頭犯罪発生件数は増加傾向にあるが、東成区の人口に対する街頭犯罪発生件数は大阪市全体の件数を概ね下回っている。

○世代別人口の推移



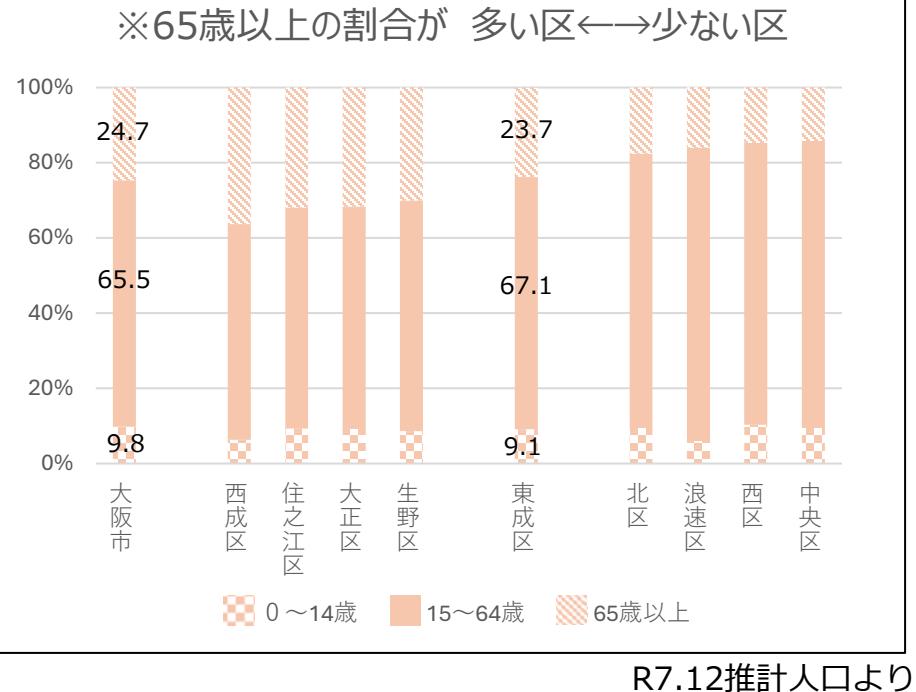
○世帯数



- 東成区の人口は増加傾向にあるが、20歳代・30歳代の若い世代の転入が多い一方、その他の年代の入れ替わりは少なく、若年の一定時期に単身で住まう者が多い。

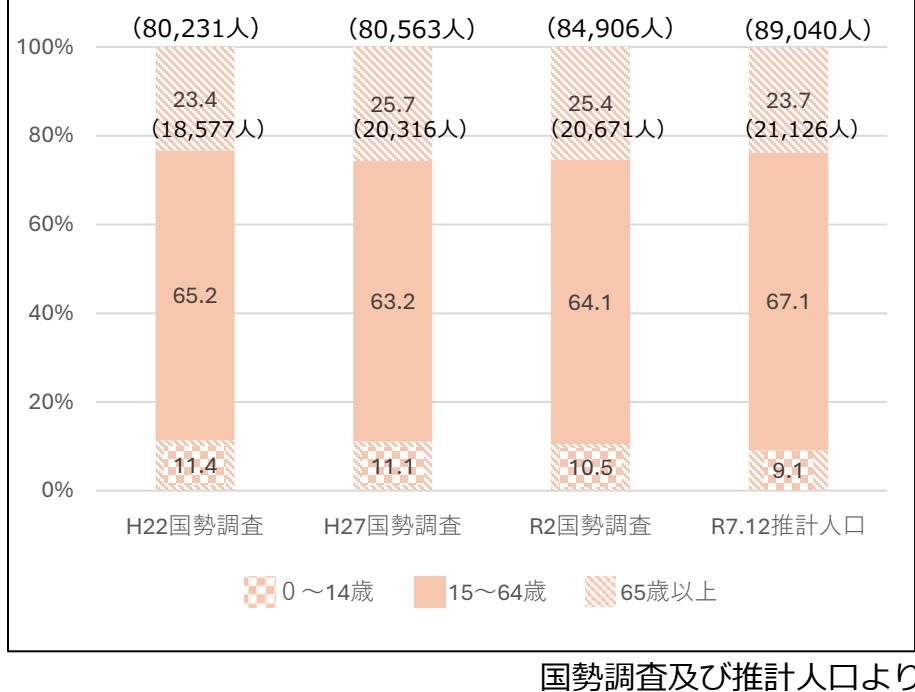
- 全世帯数の伸びと比較して単独世帯数の増加が著しく、全世帯のおよそ半数が単独世帯となっている。
- 65歳以上の単独世帯も増加傾向にはあるが、若い世代の単独世帯の伸びが顕著となっている。

○年齢区分の構成



- ・65歳以上の年齢層が全人口の23.7%であり、市内第16位の高齢化率となっており、大阪市の平均的な構成である。

○東成区における年齢区分の構成の推移



- ・人口が増加傾向である中、65歳以上の人数はほぼ横ばいであるため、高齢化率は若干の低減が見られる。

